

『岸田劉生』展 ♪ コンサート・イベント ♪
2019年11月10日 (日) AM10:30~11:30

会場：ひろしま美術館 本館ホール

ひろしま美術館支援団体 **メープルクラブ創立40周年記念**

■ **芸術の秋、爽やかモーニングコンサート** ♪

演奏：**アンサンブル・クラシカ・トリオ** Ensemble Classica Trio



～イタリアへの誘い～



本場イタリアンの自由奔放な感性、この上ない美しい調べを、
極上のテクニックを備えた「トリオ」の演奏でどうぞお楽しみください!



アンサンブル・クラシカ・トリオ Ensemble Classica Trio

オペラの殿堂ミラノ・スカラ座で28年もの間、首席フルート奏者を務めてきたロマーノ・プッチを中心に組まれたアンサンブル。今年で結成19年となるこのトリオはイタリアのみならず欧州の至るところで人気を博し、言葉を音に置き換えるといういかにもナチュラルなパフォーマンスで多くの人々を魅了してきました。すべてのアレンジを手掛けるギターのはファビオ・スプルツォラ、クラリネットを時としてマンドリンに持ち替えてはイタリアの叙情を紡ぐイヴァーノ・ブランビッラ。彼らの奏するオペラをはじめとするクラシック音楽、カンツォーネなど庶民的歌曲、そして世界中で人気のイタリア映画音楽は、ただ一流のテクニックに裏付けられた完璧な演奏で魅せる憂いのみではなく、すべての音楽においていかにもイタリアらしい、織りなされる音と音との間に生まれる偶発的な揺らぎを感じさせてくれるものです。日本においては中々味わうことのできない究極の美食に喩えられます。

演奏曲目：**映画音楽から ニューシネマパラダイスより、ゴットファーザーより、
ナポリ民謡から 帰れソレントへ、マレキアーレなど、他…**



イタリアへの誘い

ENSEMBLE CLASSICA TRIO
アンサンブル・クラシカ・トリオ

ROMANO PUCCI
ロマーノ・プッチ(フルート)

FABIO SPRUZZOLA
ファビオ・スブルツツォラ (ギター)

IVANO BRAMBILLA
イヴァーノ・ブランビッラ (マンドリン&クラリネット)



Ensemble Classica Trio (アンサンブル クラシカ トリオ) メンバー



ロマーノ・プッチ/Romano Pucci (フルート)



ローマのサンタ・チェチーリア音楽院を卒業。1980年、イタリア国営ラジオスイスの国際オーケストラコンクールの優勝者となり、優雅な音楽性と卓越したテクニックをイタリア内外に披露することになる。30年近くをスカラ座フィルハーモニー管弦楽団の首席フルート奏者として活躍。リッカルド・ムーティはじめ多くの著名指揮者、演奏家と共演しながらオペラ・バレエはもちろんシンフォニック・コンサートにおける首席奏者としての重責を果たしてきた。同劇場の来日公演にも参加。スカラ座を定年で終えると自らが中心となり様々なアンサンブル活動を展開。そのひとつアンサンブル クラシカ トリオのリーダーとしても現在活躍中。

ファビオ・スブルツツォラ/Fabio Spruzzola (ギター)



ミラノのヴェルディ音楽院を卒業。1980年前半より数々の国際コンクールに入賞してソロのギターリストとしての頭角を現す。ミラノ・スカラ座をはじめ同じくミラノにあるピッコロ劇場、ジュネーブの歌劇場などに出演してヴェルディ、ドニゼッティ、ロッシーニのオペラ作品に組み込まれたギターソロ部門を担当している。近年ではスカラ座室内楽団、スカラ座六重奏団、ベルガモ歌劇場のアンサンブルのソロ奏者として活躍。ヴェルディ音楽院、ヴェローナ音楽院などで後進の指導にあたっている。

トリオの編曲はすべてファビオによるもの。

イヴァーノ・ブランビッラ/Ivano Brambilla (クラリネット&マンドリン)



ミラノにあるヴェルディ音楽院室内楽団のソリストを務める一方、ミラノを本拠とするボメリッジ・ムジカーリ管弦楽団の団員としても活動中。シュトラスブルグ宮殿、テキサス工科大学、コロンバス大学や北京クラリネットフェスティバル、オステンドクラリネットフェスティバルにオーケストラ、また室内楽団に参加している。クラリネット奏者としての評価はもちろんマンドリン奏者としても秀逸、それ以外にも数多くの楽器を巧みに操る。

「ここが聴きどころ！」

自由な感性があふれている国、イタリア！音楽を聴いてなにより驚くべきことは「音の揺らぎ」「リズム感」が独特である事！ドイツ、フランス、英国など欧州には芸術大国と呼ばれている国がいくつもありますが、イタリアの自由な音の揺らぎは他のどの国のものとも異なります。そのような奔放さの中にも極上のテクニックまでを備えたトリオのアンサンブル。本場イタリアンの調べの中に美しく自由な音の揺らぎ、そして括りのないリズムを感じていただければ幸いです。